

〔一般社団法人 岐阜県農畜産公社「ぎふアグリチャレンジ支援センター」〕（岐阜県岐阜市）

WEBサイト：<http://www.gifu-notiku.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岐阜県は、平成26年度頃から、農福連携の推進に取り組んでいる。平成29年度には、県の外郭団体である一般社団法人 岐阜県農畜産公社内に、「ぎふアグリチャレンジ支援センター」を設置し、平成30年4月には、同センター内に、農福連携のワンストップ窓口として「農福連携推進室」を設置。
- ①農業分野への参入を検討する障害福祉サービス事業所からの相談対応、②農業者と障害福祉サービス事業所とのマッチング、③農作業指導者の派遣、④「農福連携推進マニュアル」を作成、⑤障害者の受入体験を行う農業者に対する人件費の助成、⑥障害者を受け入れる農業者に対する環境整備費用の助成など、農業者と福祉施設の双方に対し、総合的な支援を実施。

取組の内容

◆①相談対応

農作業を委託したい、農業分野への参入を検討したい障害福祉サービス事業所などの相談に対応。

◆②マッチング

農福連携コーディネーター2名が、農業者や障害福祉サービス事業所を個別訪問し、農作業に関する請負契約の締結のマッチングを実施。

◆③農作業指導者の派遣

初めて農作業に従事する障害福祉サービス事業所に派遣し、障害者の農作業を支援。

◆④マニュアルの作成

障害者を受け入れる方法、作物ごとの農作業の注意点などをわかりやすく図解した「農福連携推進マニュアル」をHPで公表。

◆⑤障害者の受入体験を行う農業者に対する人件費の助成

障害者の受入体験を行う農業者に対し、賃金相当額を助成（補助率10/10、補助上限額10万円/件）。

◆⑥作業環境の整備に関する費用の助成

障害者を受け入れた農業者に対し、作業環境の整備に関する費用を助成（補助率1/2、補助上限額50万円/件）。

取組の効果

*平成30年度の結果

◆①相談業務

相談件数80件、訪問件数48件

◆②マッチング

マッチング11件。

◆③農作業指導者の派遣

サポーター登録者3名、派遣17件。

◆⑤農業者に対する人件費の助成

活用6件。

◆ 令和元年度には、農業大学校において、障害福祉サービス事業所の職業指導員等に対する栽培技術の指導も開始。

マニュアル等



農作業受委託



マルシェ



〔運営主体：株式会社 DAI〕〔事業所：就労継続支援A型事業所「それいゆ」〕（岐阜県関市）

WEBサイト：<https://www.dai2011.com/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 岐阜県関市にある「それいゆ」は、平成23年に、株式会社DAIが設立した就労継続支援A型事業所。現在、精神障害などを持つ施設利用者8名が、野菜生産と加工・販売に取り組む。
- また、平成28年度から、サトイモ農業者の組合に加入。市内の農業者から借り受けた圃場で、指導を受けながら、県特産品である「円空里芋」を生産。組合員から、手間のかかる調製作業を受託することで、組合員の経営に余裕が生まれるとともに、事業所は安定的に工賃を支払えるなど、双方にとってメリットが生まれている。

取組の内容

- ◆ 約1haの農地において、ニンニク、サツマイモ、タマネギなどを生産。乾燥野菜への加工も実施。
- ◆ 平成28年度から、県の中濃農林事務所やJAめぐみの等の仲介により、組合員から県特産品「円空里芋」の収穫作業、毛羽取り、選別作業を受託。
- ◆ 市内の農業者から借り受けた圃場30aで、指導を受けながら、自社でもサトイモの栽培を実施。
- ◆ JAめぐみの主催の就農塾に参加し、基礎知識や農業技術を習得。

取組の効果

- ◆ サトイモの調製作業は手作業で行われており、多くの作業時間を要するが、障害者に調製作業を委託した組合員からは「時間に余裕ができ、他の作業をすることができるようになった」と好評。
- ◆ 中濃里芋生産組合の栽培総面積は、10.5haから13.7ha、組合員1戸当たりの栽培面積は、15aから20aへと増加。
- ◆ 丁寧な作業により信頼を得ていく中で、調製量が増えてきており、平成28年度は農業者4戸から3トだったのが、平成29年度は7戸から30ト、平成30年度は16戸から45トと、開始当初から15倍に増加。
- ◆ サトイモ関連作業に従事する障害者に支払われる平均賃金は約9万2千円/月と、県内A型事業所の平均を上回る。

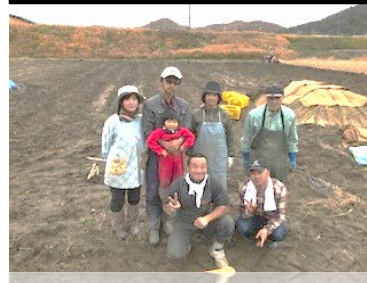
収穫作業



調整作業



委託農家と撮影



自然栽培により耕作放棄地を解消

〔運営主体：社会福祉法人 無門福祉会〕〔事業所：就労継続支援B型事業所「むもんカンパニー」他〕（愛知県豊田市）

WEBサイト：<http://www.mumon-fukushi.net/>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 愛知県豊田市にある社会福祉法人無門福祉会は、就労継続支援B型事業所「むもんカンパニー」など3つの障害福祉サービス事業所を運営。昭和63年の開所以来、農作業に取り組んでおり、現在は、知的障害者を中心とした施設利用者51名が、野菜と米の生産、加工を通年で実施。
- 平成26年から、農作業の場として、市内の耕作放棄地の再生を開始。障害者が、農地を維持する役割を担う。
- 平成26年から、無肥料・無農薬の自然栽培に切り替えたことで、農業に手間をかけることが就労意欲の向上につながり、耕作面積と売上高が増加するなど、経営に効果があった。

取組の内容

- ◆ 5haの農地において、イチゴ、菌床シイタケ、サツマイモ、コメ等は無農薬・無肥料で自然栽培。また、養鶏農家で約300羽の飼育作業も実施。障害者は、農作業全般のほか、出荷調製、加工、販売まで実施。
- ◆ 開所当初は、野菜が売れず、職員・利用者ともに作業意欲が低かったが、平成26年に自然栽培に切り替えた。現在、法人の事務局長は、自然栽培による農福連携を通じて耕作放棄地の解消を目指す団体「一般社団法人 農福連携自然栽培パートナー全国協議会」の理事長を務める。
- ◆ 開所当初は、障害者には石拾いなどの単純作業を割り当てたが、飽きてしまうなどの様子が見られたため、その後、比較的難度の高い収穫や選別作業などにも従事。

取組の効果

- ◆ 自然栽培への切替により、農業に手間をかけることで就労意欲の向上につながり、3年間で耕作面積が4ha増加。また、平成29年度の売上高は、3事業所合計で約6,900万円。
- ◆ 農業技術の高さが評価され、平成26年からは、市内の農業法人から農作業の請負を開始。
- ◆ 障害者が作業に習熟することにより、イチゴポットの土詰めは、同じ時間で100ポットから700ポットへと7倍の処理が可能になった。

イチゴの虫取り作業



サツマイモの収穫作業



- 愛知県春日井市にある有限会社H&Lプランテーションは、園芸を行う農業法人。平成12年から、障害者の受入れを開始。現在は、精神障害者1名をパート社員として雇用するほか、近隣の障害福祉サービス事業所から、知的・精神障害者、生活保護受給者など数名を受け入れ、花き鉢物の生産を通年で行う。
- 受入れ開始から20年近くで、障害者の受入れ機会を大幅に増やすことができた。
- 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- 動物園や植物園の花壇の植栽作業や花の提供を実施するなど、障害者の作業による成果が地域に広まっている。

取組の内容

- ◆ 農地1haで、ハーブ、花、多肉食物、野菜等の苗を生産し、自ら販売も実施。
- ◆ 農福連携の技術指導者「アグリジョブコーチ」がほ場で指導を行うことで、円滑な作業を実現。
- ◆ 法人の代表取締役は、日本園芸福祉普及協会の認定資格である園芸福祉士を取得するなど、障害者の受入れに熱心に取り組む。



取組の効果

- ◆ 障害者を受け入れて指導することにより、農場の貴重な人材の確保につながった。
- ◆ 社会貢献活動と営利活動の両立により、農場スタッフが“やりがいと達成感を感じるいい仕事”ができていると実感。
- ◆ 障害者を直接雇用しているが、障害者がかつて所属していた就労移行支援事業所と連絡を欠かさず、それぞれの障害者への接し方の留意点を把握。その結果、障害者のケガや病気の防止につながり、良い労働環境を実現。
- ◆ 園芸を通じたまちづくりを行うNPO法人に協力して、動物園や植物園の花壇の植栽作業や花材提供等を行うことで、障害者の作業による成果が地域に広まっている。

- 三重県は、平成20年度頃から、農福連携の推進に積極的に取り組んできている。特に、名張市では平成20年度から、鈴鹿市では平成27年度から、それぞれ農福連携の協議会を設置して、全国で最も早くから、障害者が農園で働きやすくなるように支援を行う人材「農園芸ジョブトレーナー」の養成研修を実施。
- また、平成27年10月、県レベルで推進するために、「一般社団法人三重県障がい者就農促進協議会」を設立。これまで各地で実施してきた農園芸ジョブトレーナーの養成を中心としつつ、障害者による農業体験の実施、障害者が生産した農産物を用いた商品開発など、幅広い取組を展開。

取組の内容

- ◆ 名張市の園芸農家「株式会社緑生園」の代表取締役は、NPO法人日本園芸福祉普及協会の理事兼認定講師であり、長年、障害者による農園芸作業の支援について研究・実践してきた。
- ◆ 平成20年度、代表取締役が中心となり、障害者が農園で働きやすくなるように支援を行う人材「農園芸ジョブトレーナー」の養成プログラムを開発。現在は、座学講義、グループワーク、実地を組み合わせた2日間の研修を実施。
- ◆ 平成25年度からは、県の農業大学校において、就農希望者や障害福祉サービス事業所の職業指導員などを対象に、農福連携の講座を開講。
- ◆ 平成27年度からは、障害者による農業体験を実施し、体験の場に農園芸ジョブトレーナーを派遣。また、障害者が生産した農産物を用いた商品開発を支援するなど、県民への農福連携の認知度向上にも取り組む。

取組の効果

- ◆ 平成27年度から30年度にかけて、福祉関係者、農業者、行政職員など、延べ580人が養成研修を受講。県内外に農福連携の専門人材を確実に送り出し続けている。
- ◆ 障害者による農業体験の場に、育成した農園芸ジョブトレーナーを派遣することで、平成28年度と29年度には、4名の障害者が農業者に雇用されており、障害者の就農を着実に拡大。
- ◆ 伊賀市のイチゴ農業者は、農業大学校の講座で学び、福祉に関する知識を得たことから、障害者の受入れを円滑に開始したなど、効果が出ている。
- ◆ 協議会の支援により、農業高校や企業の発案を生かして、パン、ジャム、ドレッシング等を商品化。

ジョブトレーナー養成研修
（左：実地研修）
（右：グループワーク）



イチゴを高品質に生産し、県農業の担い手に

〔運営主体：社会福祉法人 まつさか福祉会〕〔事業所：多機能型事業所（就労継続支援B型・生活介護）「八重田ファーム」〕（三重県松阪市）

WEBサイト：<https://www.mukaiyaebell.or.jp>

視察受入れ：可

報道機関受入れ：可

- 三重県松阪市にある「八重田ファーム」は、社会福祉法人まつさか福祉会が運営する多機能型事業所。現在は、知的障害・精神障害を持つ施設利用者17名が、ハウスでのイチゴ栽培を中心とした農作業を通年で実施。
- 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、イチゴ生産でASIA GAP認証を取得。イチゴを高品質に生産することで、県農業の担い手として期待されている。

取組の内容

- ◆ ハウス30aでイチゴを生産。また、約2haの露地でナバナ、金ゴマ、ニンニク、カボチャ等を生産。イチゴジャムへの加工にも取り組む。
- ◆ 離農した農業者から借り受けたイチゴハウスに、平成25年度「『農』のある暮らしづくり交付金」の補助を受け、高設栽培システムを組み込み、持続力がない障害者が作業しやすくしている。
- ◆ 害虫の被害を受けやすいイチゴでは、農薬散布が重要であるため、虫の写真などをハウス内に貼ることで、利用者に害虫について知ってもらおうとともに、品質管理への意識向上を図っている。

取組の効果

- ◆ 平成30年度には、県内の障害福祉サービス事業所で初めて、イチゴ生産でASIA GAP認証を取得。また、高品質なイチゴが販売先から評価され、平成30年には国際線機内食にも提供。
- ◆ イチゴ導入当時より利用者ができる作業が増え、今では、収穫作業にも従事。
- ◆ イチゴ栽培技術を信頼され、市内の離農した農業者から空きハウスや農地を借り、生産面積が増加。また、生産量の増加に伴い、県内大手スーパーと直接取引を開始。
- ◆ 安定的な経営により、就労継続支援B型事業の利用者の平均月額工賃は30,536円（平成29年度）と、三重県の平均14,915円を大幅に上回る。

ナバナの収穫作業



イチゴの収穫作業



国際線機内食に提供されたイチゴ

